

1013 心疾患における¹²³I-BMIPP および²⁰¹Tl 心筋SPECT の対比

塚原玲子、村松俊哉、丸山路之（健康保険総合川崎中央病院循環器科） 岡田 正（同内科） 高橋正彦、松本義勝（同放射線科） 秋元奈保子、井上健彦、斎藤 徹、上嶋権兵衛（東邦大学第二内科）

心疾患を有する患者60例（心筋梗塞MI, 狭心症AP, 肥大型心筋症HCM, 心電図異常ECG ab）について安静時BM, 負荷Tl心筋SPECTを施行し、心筋の取りこみ、集積解離様式などについて検討した。imageはそれぞれ7segmentに分割しそれぞれのとりこみを視覚的にスコア化した。（0:正常-4:とりこみなし）疾患別にみた平均BMのdefect scoreはMIで最も多く、AP, HCM, ECG abの順に低下した。BM, Tlのどちらか一方で異常をみる領域中B>TはAP 60%, MI 70%, HCM 100%, ECG ab 65%にみとめられこれらの部位での脂肪酸代謝異常が示唆された。

1014 Coronary flow reserveの増加が¹²³I-BMIPP像に与える影響の検討（Dipyridamole負荷を用いて）

安部美輝、岩坂壽二、神島宏、中森久人、竹花一哉、唐川正洋、杉浦哲朗、稻田満夫（関西医科大学 心臓血管病センター内科）、杉林慶一、菅 豊（同 放科）

Coronary flow reserveの増加が¹²³I-BMIPP像に与える影響とその臨床的意義を検討した。冠動脈・左心室造影施行後2週間以内に6例（男4例、女2例、年齢64±9才）に対しDipyridamole負荷BMIPP（0.568mg/kg/4min）及び安静BMIPPを施行した。初期像（30分後）のSPECT像を視覚的半定量的に評価し、両者を比較検討した。欠損の程度は安静BMIPPよりDipyridamol負荷BMIPPで大の傾向を認めた。Persantin負荷BMIPPと安静BMIPPの欠損の程度の相違の原因としてCoronary flow reserveの増加が関与しているものと考えられた。